



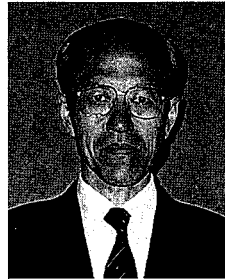
千葉大学医学部同窓会報 第108号 題字 鈴木五郎

編集発行者
千葉大学医学部
ゐのはな同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
ゐのはな同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026

附属病院長就任の挨拶

小児科学講座

新美 仁 男 (昭33卒)



のお知恵を拝借しなければならぬ点が多々あると存じます。どうか皆様方の温かいご指導、ご支援をお願い申し上げます。次第でございます。

平成七年四月一日から附属病院長を拝名することになりました。

現在、附属病院を取りまく情勢はきびしく、責任の重さをひしひしと感じております。

私にだけだけのことが出来るか心配ですが、歴代の病院長の歩まれた道を踏み固めながら、諸種の問題の解決に向けて誠意をもって取り組んでいきたいと考えております。

昭和26年以来、千葉大学で教育を受け、諸先輩に育てていただきました。その恩返しに、附属病院の発展のために全力を尽くす覚悟でおります。

今後、医学部長をはじめ、医学部・附属病院の方々もとより、ゐのはな同窓会の皆様を含めた周囲の多くの方々

教授就任の挨拶

内科学第二講座

齋藤

康 (新潟大昭43卒)



教授(現駒込病院院長)の御指導をうけ、18年間過ごしました。その後山形大学医学部臨床検査医学教授として赴任し、この度また千葉大学にお世話になることになりました。卒業以来、内科臨床とともに、内分泌代謝にも脂質代謝を中心に、動脈硬化や肥満症など

会費納入のお願い

本年度分のはな同窓会会費(三、〇〇〇円)の納入をお願い致します。同封の振込用紙を用いてご送金下さい。なお、東洋信託銀行または三井信託銀行より引落としにより納入されている方、および会費免除の方(卒後50年経過の会員・名誉会員)に請求が届いた場合は、ご容赦下さい。

ゐのはな同窓会

総会のお知らせ

今年度のゐのはな同窓会総会を左記により開催致します。同窓会活性化のため奮って御参加下さい。同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さい。(6月15日必着)

- 一、日時 平成7年6月24日(土) 午後3時より
- 一、場所 ベリエホール(千葉駅ビル五階) (電話)〇四三一二七一一九五代表
- 一、総会次第
 - (1) 会務報告、(2) 議事、(3) 報告事項、他
 - 一、講演 「文明開化の光と影」 高橋敏先生(国立民族歴史博物館教授) 午後五時三〇分より七時頃まで 会費二、〇〇〇円 (当日受付にて申し受けます)

岡林 篤 先生
千葉大学名誉教授(病理学)

田波潤一郎 先生
千葉大学元教授(衛生学)

横川宗雄 先生
千葉大学名誉教授(寄生虫学)

岡林 篤 先生
2月28日午後3時52分、心不全のため逝去。享年84才。
田波元教授(昭16卒)は、病氣療養中のところ、3月3日午後0時5分逝去。享年79才。
横川名誉教授(台北大昭16卒)は、5月3日午前4時68分、くも膜下出血のため逝去。享年77才。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教授就任の挨拶

秋田大学医学部救急医学講座

稲葉 英 夫 (昭54卒)



酔科講師として、ショックの病態生理について研究してきました。

平成6年度に秋田大学医学部に救急医学講座が開講となり、平成7年4月1日付でその初代教授を拜命いたしました。私は昭和54年に千葉大学医学部を卒業後、麻酔科に入局いたしました。1年の初期研修の後、千葉県救急医療センターおよび千葉大学医学部附属病院救急部・集中治療部に勤務し、救急医療の研究に励みました。

平成2年よりは、附属病院麻酔科に勤務し、救急医療の研究に励みました。

(一) 面談・齋藤康教授就任の挨拶

これには細胞生物学や遺伝子工学を自由に駆使できる臨床医の育成も求められている時代とも思います。しかしあくまでも医療の現場から離れることなく、医療が求められることに敏感でありたいと思っています。そして第二内科には免

重要です。また一方では、大病院における救急医療の実践としての救急部の運営には臨床各科との協調協力関係が不可欠です。そうすることにより、小さな臨床医学講座である救急医学講座も大きな力を発揮できるものと信じております。

教育面におきましては、救急医学講座は、学生、救急医療関係者、市民を対象とします。一方的な知識の普及にとどまらず、彼等の抱く疑問に耳を傾け、疑問を解決する方法を教え、必要ならばそのための場所を提供したいと思

秋田大学医学部には、本学出身の戸川教授が耳鼻咽喉科におられます。また、本学耳鼻咽喉科の今野教授は、戸川教授のもとで助教授をなさっております。私は若輩の身ではありますが、秋田大学医学部に、教育、臨床、研究のいずれも大切に、これら

うに心掛けて参りたいと思っております。そしてなによりも医局員が楽しく、やりがいのある毎日を送ることができ、それを通じて多くのかたがたとの交流をもち、医学に貢献できることに努力して参りたいと思っております。よろしく御指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

相互に関連させて発展させることのできる理想的救急医学講座を確立したいと決意して

獨協医科大学産科婦人科学講座

稲葉 憲 之 (昭47卒)



この度4月1日付けで獨協医科大学産科婦人科学講座の教授を拜命致しました。この間種々高配賜りました高橋英世医学部長、関谷宗英教授始め関係各位に衷心より御礼申し上げます。

私は昭和47年に卒業、迷うこと無く産婦人科教室(御園生雄三教授、昭10卒)に入局、以来23年の長きに亘ってお世話になりました。特に高見沢裕吉名誉教授(昭27卒)には、時には落雷もありましたが、メスの持ち方から懇切丁寧なご指導を賜りました。良き師、良き先輩、同僚に恵まれ、実に充実した亥鼻での23年間であります。千葉を離れて獨協医科大学に骨を埋める覚悟をして、改めて千葉大学医学部の素晴らしさをひしひしと実感致しております。

獨協医科大学は昭和48年に

が勤められ、現在同大学のご出身者が臨床教授、助教授、講師(2名)として活躍中であり、越谷分院のスタッフも臨床教授、助教授、講師(3名)全て東京医科歯科大学から派遣されており、浅学非才、若輩の身としては当初些かの不安もございましたが、所詮は人のする所でありまして何とかなるのではと今では楽観しております。幸い、先任の方々が立派に教室の基礎を築いてくれており、臨床面では何の不安もありませんが、研究面では未だ十分とは申せません。歴史のある千葉大学とは比較すべくもありませんが、少しでも近づけるよう渾身の努力を致したいと存じます。人的交流も含めての同窓会のご先輩方の暖かいご援助を心からお願ひしたいと存じます。末筆ではありますが、母校千葉大学医学部の益々のご発展と、のびのびな同窓会の先生方の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

祝平成7年叙勲

- 勲三等瑞宝章 横田 仁(昭27)
- 勲三等旭日中綬章 橋爪藤光病一(チャムス医大昭21)
- 勲四等旭日中綬章 宮崎隆次(昭23)
- 勲五等瑞宝章 伊藤貞男(徽一昭和医専昭17)

「ゐのはな随想」

戦後半世紀ゐのはなキャンパスの変遷

井出 源四郎(昭19卒)

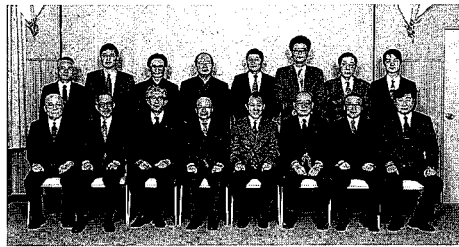
今年を終戦から数えて恰度半世紀。その頃学生だった同窓諸君も今や古稀の齢を超えることとなる。時の流れはまことに速い。明治は遠くなりけりと言ふ俳人の名句があったが、今や明治大正は遠く震んで昭和でさえ急速に遠退きつつある。ゐのはなのキャンパスも来し方を思うと、すっかり様変わりしてしまつたのだと熱く思う。終戦の年、矢作台の旧教室群は爆撃によりその大半を灰燼に帰した。その瓦礫の焼け跡に立った時の感慨は消え去ることはない。焼失する前のキャンパスには、その中央に一本の銀杏と櫻の並木道があつて、四季折々に変貌し、両側の奥まつた処に、薄い焦げ茶色に統一された各基礎教室が、個別に建ち列んでおり、質素な木造建築ながら、その清楚な佇まいは如何にも大学らしい雰囲気を感じ出して、今にして想うと何とも懐かしい。今そこには白亜十四階建ての新附属病院が聳え立っているのである。

焼失した基礎教室はその後十年余のバラック生活を余儀なくされ、昭和三十四年に現在看護学部と図書館とが利用されている当時の新築校舎に転居し、略二十年の間各教室は共同のアパート生活をした。昭和五十四年には新病院の落成を機に、臨床各教室は旧病院にあつた診療に関わる機能を新病院に移転し、旧病院は基礎臨床の医学部全講座が医学部本館として合同利用することになった。それより以前、昭和五十二年、古い薬学部等の建物が撤去された跡地に駐車場が、そしてその近くのテニスコートの奥には、新たに習志野から腐敗研究所が引越してきて、今日真核微生物研究センターとして活動を続けている。

最後に面目を一新した医学部本館について簡単に書き添えておきたいと思う。今や本館は文字通りこのキャンパスの中核に座り、その堅固比類のない建築であることはご承知の通り、年を重ねて益々品位と風格を備え、訪れる人々の悉くが讃嘆を惜しまない。しかも最近本理学部の前田名誉教授多年の研究により、何とここに使われている大理石の中に貨幣石と称する原生動物有孔虫類の化石が多数証明され、これは今から概ね四千万年前のもので、エジプトのピラミッドやスフィンクスと同年代のものだと言うので

ある(千葉医学雑誌71巻57頁1995年参照)。正に本館はわが国の文化財として誇り得ると思うのである。

安房ゐのはな会



安房ゐのはな会(会長野原宏)は、平成7年2月8日(水)館山市夕日海岸ホテル海幸苑で、中島伸之第一外科教授をお迎えして開催された。

安房ゐのはな会(会長野原宏)は、平成7年2月8日(水)館山市夕日海岸ホテル海幸苑で、中島伸之第一外科教授をお迎えして開催された。総会の後、「最近の学内事情」と「心臓血管外科の最近の進歩」について、中島教授から御講演頂き、懇親会となった。当日の会員出席者は次の通り。野原宏(17)・本位田泰介(28)・貴家昭而(30)・西川義明(34)・原久彌(34)・佐伯陳哉(35)・青木謙(36)・本多満(37)・関谷信平(38)・上村公平(50)・植木良裕(53)・梶川工(54)・小田健司(61) 安房医師会の経営する安房

お知らせ

千葉県ゐのはな同窓会会員の皆様へ 「千葉県ゐのはな会」発足の提案

謹啓 先生におかれてはますますご清祥のことと存じます。さて千葉大学ゐのはな同窓会員の皆様には、毎年総会のご通知を差し上げておりますが、出席者数が少なく、同窓会の活性化を目指して苦慮しております。40年程前に千葉県内を住所別にブロックとした支部をつくった経緯があり、いまでも一部(市川・松戸・君津木更津・安房など)では同窓会活動をされております。しかし多くは休眠状態にあるようです。近年県下には5大学の附属病院があり、これら私立大学同窓会活動は極めて活発です。無縁成り立ちが異なり、一律に比較出来ませんが、同じ「ゐのはな会」でも同窓会報に見るように、東京や地方の「ゐのはな会」は活動的であり、千葉県ゐのはな会と

して甚だ残念に思っています。これは従来「学内ゐのはな会」に相乗して現在に至ってしまつたことによると思われまふ。平成6年度よりゐのはな同窓会は会長井出源四郎先生、副会長には加納六郎(東京ゐのはな会長)、近藤洋一郎(学内ゐのはな会長)の両先生、そして私、渡辺武(千葉県ゐのはな会長)となり、「同窓会の活性化」を目標の一つとして活動しております。千葉県の常任理事は、茂又眞祐(22年卒)、伊東和人(23)越川衛(専23)香田眞一(31)森博志(31)椎名益雄(33)の諸先生です。

さて、このような経過から千葉県ゐのはな会は千葉県下として新たな視点から出発したいと思ひます。まず、地区別の同窓会名簿をつくり、ブロックに分け、支部長または世話人代表をお願いし、同窓会として例えば相互診療協力、情報交換、就職斡旋など活性化を計ることを目的とします。昨年来数回にわたって常任理事が集まつて発起人として一応会則(案)をつくり、県下を10ブロックに分けて名簿を作る作業に入っております。

総勢二七一七名。うち学内会員五一五名ですので実数二二〇二名です。「千葉県ゐのはな会」としては新たな発足です。何かと試行錯誤があるかと思ひます。出来る所から順次県下下及びべども思ひます。何卒暖かいご理解とご協力と共にご意見ご提案をお寄せ願ひたいと存じます。

なお来る6月24日(土)のゐのはな同窓会総会には多数ご参会下さるようお願い申し上げます。 敬具

千葉県ゐのはな会発起人代表 渡辺 武
FAX番号 ○四七〇(二二)一〇八一

医師会病院は、千葉大学各科学部の全面的バックアップで成り立っている。平成3年より奥井勝二先生、本年4月より大藤正雄先生を顧問としてお迎

えし、常勤医として、上村公平副院長、梶川工務部長、安倍巳紀男(4)医局長の3人を中心に、本学出身者では、高祐次(4)の各氏が勤務。

(青木 謙・昭36・記)

各地の はな会 たより

栃木の はな会 同窓会 総会



橋英世医学部長と、新しく救急医学講座を担当された平澤博之教授をお迎えし、去る1月26日、宇都宮市内のホテルニューイタヤで、38名の会員出席のもと、盛大に開催された。

本総会で、永年会長を務められた渡辺宗次先生(昭10卒)が勇退され、後任に、元厚生連石橋病院々長の高村良平先生(昭23卒)が就任された。

総会後、恒例により、高橋医学部長から学内事情をお聞きしたあと、平澤教授の「最近の集中治療について」と題する興味ある講演を拝聴した。

引続いて、懇親会に移り、須田泰之先生(専17卒)の音頭による乾杯に始まり、栃木県医師会長、片山一郎先生(昭25卒)より「医療界の現状と地域医療」について貴重なお話を伺いました。

年次の若い先生方の自己紹介やら、歓談やら同窓のよしみで、和気あいあいのうちに、夜の更けるのも忘れて語り合い親睦を深めた。

最近、本学同窓会の活性化について、いろいろ論議されている。

本県では、一〇〇余名の会



員を擁し、独協医大、上都賀・塩谷・石橋の三厚生連病院等、本学との関連病院をもち、片山医師会長を中心に、病診連携を計り、会員同志の親睦と団結を計っている。

最近、とみにまとまりをみせ、年々、卒業年次の若い先生方の出席者が多くなっている。

君津木更津の はな会 同窓会

去る平成7年3月15日に木更津温泉ホテルにおいて平成六年度の総会が開かれました。

当日は、はな会本部より

るのが喜ばしい。ちなみに、栃木の はな会 ルフコンベも、十周年を迎え、五月には記念大会を予定している。外科関係では、あのはな外科懇話会を年3回開催、勉強会と親睦をかね、本年度12年を迎えている。(柴崎晃・昭28・記)

富山の はな会 同窓会



が二次会に繰り出し、遅くまで盛り上がりました。来年も1月ないし3月に同窓会開催

が予定されております。(田中弘一・昭42・記)

平成6年8月24日富山医科大学泌尿器科の片山 喬教授(昭30)の同大学副学長として、富山の はな会 同窓会が富山市加賀家で開催されました。今回は片山 喬副学長のご同級の千葉大学解剖学(第2)の永野俊雄教授をお迎えしました。連日の猛暑に加え、例年の土曜日より水曜日開催としたためか、若干出席者は少ない傾向にありましたが、金沢の方より金沢医科大

出席者は以下のとおりです。小西善磨(昭18)、四家正一郎(昭26)、片山 喬(昭30)、辻 陽雄教授(昭33)、長尾竜郎(昭40)、寺澤捷年(昭45)、布施秀樹(昭51)、松山幸孝(51)、石川成明(昭53)、伊藤 隆(昭56)、山本修一(昭58)、田村須賀子(看昭59)、長谷川ともみ(看昭63)

(布施秀樹・昭51・記)





三一 会

(昭和6年卒)

昭和2年に入学した我がクラスは一高、二高、四高、五高、八高、弘前、山形、水戸、浦和、松本、静岡、松江、山口、松山、高知、佐賀の17高校(全高校の半数)から60名が集まった。18歳から三十有余歳まで年齢にバラツキが大きかった(日本医事新報平成6年3652号参照)。

1931年に卒業したので三一会ときめました。級友から宮内、竹内、三輪三教授が出て、研究、教育、診療に活躍されました。又不世出の名投手富士川次郎君は在学中、東大、慶大と対戦したり、卒業後は都市対抗で横浜市代表の選手として勇名を馳せた。

しかし大友、伊藤、小野、織戸、露崎、山本、森田の7名が在学中に早世されたことは、当人は勿論家族の無念さは如何であったでしょう。

卒業後、毎年一泊でクラス会をつづけることが出来たのは、名幹事筒井榮君のめまぬ配慮のおかげでした。昭和56年には五十周年を記念して千葉市で盛大に開催、御健在であ

あった元二内の佐々教授、おのはな会長小林金市君、及び井出源四郎千葉大学長(現おのはな会長)が御出席下さって丁重な祝辞をいただきました。今や皆高齢となり会員も10分の1となり、平成元年熱海の起雲閣での会合が最後となりました。今後は同名の昭和31年卒業の三一会の皆さんと御隆昌を祈ります。

(大野俊雄 記)

昭和24年卒

(昭和24年卒)

向島京屋のクラス会はもう7、8回に及ぶのであろうか。

幹事の長沢君が生きているうちには、ここで飲めるのだから、いつまでも長生きをして貰わなくてはならない。幾たびかホテルでやったこともあるが、結局は京屋に落ち着くのである。70才ともなると、どうしても芸者と畳がなければいけないようである。会に先立って、亡くなった上村菊朗君に黙祷を捧げる。ギターの兄さんとも顔馴染みになり、大西君が高知高校五十周年記念祭歌の楽譜をあげてくれた。彼の唱の方は余り感心しなかつたが、ギターの伴奏は



うまく出来ていた。プロというのは恐ろしいものである。特段の議題もなく、銘々が勝手な話をして酒を飲みはじめた。それでいて心が満たされるのであるから、同級生といふものは有難い。長沙君の警視総監賞、山中君と小生の勲章のお祝いをして戴いてしまった、お互いの無事を確かめる齢になったのである。

雪催いの寒い宵であったが次の20名が元気に集った。

長沙達也 佐藤巖 佐藤昇一 武藤滋 大西盛光 小島恒教

三五 会

(昭和35年卒)

春寒の凍立てる隅田川
(長井和行 記)

柳澤頼雄 大池和祐 田中光
小杉秀雄 中島令一 守岡稔
長崎邦泰 信国英一 高木一男
山中和 小林弘 豊浦公世
長沢仁一 長井和行



卒後35周年記念会を3月4日に浦安ライオンホテルで、三橋稔君(習志野第一病院)の肝煎りで開催した。生憎の雨であったが、32名が集い、同君推奨の和食バイキングに舌鼓を打った。

年廻りからか沢山の雑用を背負い込み、ただひたすら忙しさに紛れてはいても、体力の限界を感じ、仕事に間に合うどうかと早々と不安になり、何か抜けているのではと憂い、35周年といわれても虚に何の感慨もない。大学の新しいカリキュラムのこと、人事のことなど大学に残った者らが交々語ったが、各自の消息を喋る段になっては、学生時代よろしく瞬く間にマイクが廻った。最近亡くなった浅野佳徳君の冥福を祈った後、泊まる予定だった者も誰一人泊まることもなく、怒々に引き揚げた。来年は神奈川県で開催する予定。

(藤村眞示 記)

おのはな41会

(昭和41年卒)

平成7年3月18日、千葉市内の「春の家」において昭和41年卒業のクラス会を開きました。この学年は昭和35年入学直後の4、6月に60年安保を経験し、卒業時にはイン

ターン問題が起こり、クラスの中で激しい議論も行われましたが、今は皆、安定した生活を営んでおり、過半数を超える45名が出席しました。

第89回医師国家試験行われる

皆さんが医療を通じて社会に貢献されていますが、レールジツツに閉じてみますと、里村洋一、福田康一郎の両君がすでに本学の教授になっており、最近の変化として、平澤博之君が救急医学講座の教授に、佐々木望君が埼玉医大小児科教授に、諸岡啓一君が東邦大学小児科の教授に、工藤典雄君が筑波大学副学長になっています。また、長い間麻酔科の助教授を務められた飯島一彦君が大学を辞して、千葉市内で開業されました。その門出を皆で祝いました。

(落合武徳 記)

本年は3月18日、19日に行われ、4月21日に合格発表があり、七、九三〇名の新医師が誕生した。本学から一四二名が受験し、合格者は一〇二名で、合格率は八九・五%であった。なお全国平均は八六・〇%、国立大学の平均は八九・七%であった。

「千葉大学医学部八十五年史」残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは同窓会事務室までお問い合わせ下さい。

人事異動

千葉大学

名誉教授

平山恵造 (東大昭29)

評議員

佐藤甫夫 (昭35)

藤村眞示 (昭35)

助教授昇任

関 克義 (昭43)

産婦人科学 (防衛医大講師より)

黒見 坦 (京大薬昭42)

発達生理分野 (同講師より)

講師昇任

田丸淳一 (独協医大昭54)

病理学第一 (同助手より)

廣島健三 (昭54)

肺研病理 (同助手より)

佐藤二郎 (昭56)

麻酔学 (同助手より)

大竹喜雄 (昭52)

集中治療部 (同助手より)

古関啓二郎 (昭54)

精神医学 (同助手より)

杉田道夫 (金沢大昭53)

産婦人科学 (杏雲堂病院医

長より)

厚生省の健康政策局長に 谷 修一氏 (昭38卒)

井出厚相は1月10日に開かれた閣議の了解を得て、寺松尚健康政策局長の辞職と、その後任の健康政策局長に、谷修一保健医療局長

他大学

稲葉憲之 (昭47)

独協医大産婦人科学教授

(千大助教授より)

稲葉英夫 (昭54)

秋田大救急医学教授

(千大講師より)

厚生省人事異動

(4月1日付)

院長昇任

五十嵐正彦 (国立習志野・昭34)

三木 亮 (国立横浜東・昭38)

大塚嘉則 (国療千葉東・昭39)

副院長昇任

伊藤文雄 (国立習志野・昭37)

五月女直樹 (国立横浜東・昭49)

清水順三郎 (国立精神神経セ

部長昇任 (手術部長)

平賀一陽 (国立がんセンター

退職

荒川直人

(国立精神神経セ

香田眞一 (国立習志野・昭31)

高野 昇 (国立横浜東・昭31)

庵原昭一 (国療千葉東・昭31)

千葉県職員人事異動

(4月1日付)

保健所長

川口幸夫 (昭32) 船橋 (木更

津より)

今留 淳 (昭33) 市川 (佐原より)

小倉敏一 (昭36) 木更津

(船橋より)

石田逸郎 (昭41) 八日市場

(千葉県がんセンター医長より)

精神保健センター

矢野 徹 (昭40) センター長

(同次長より)

がんセンター

大里克信 (昭46) 脳外主任医長

(千大脳外助手より)

丸岡正幸 (昭50) 泌尿主任医長

(医長より)

米本司 (昭62) 整外医長 (新採

救急医療センター)

松本京一 (昭50) 外科主任医長

(医長より)

沖本光典 (昭50) 心外主任医長

(医長より)

宮田昭宏 (昭62) 脳外医長 (新採

こども病院

羽島文麿 (昭48) 麻酔科部長 (主

任医長より)

衣川直子 (昭49) 小児主任医長

(医長より)

沖本由理 (昭50) 小児主任医長

(医長より)

伊達裕昭 (昭50) 脳外主任医長

(医長より)

松永正訓 (昭62) 小児外科医長

(沼津市立病院医長より)

一般県立病院

石田 厚 (昭61) 鶴舞病院外科

医長

本田 崇 (昭62) 東金病院整外

三枝敬史 (昭62) 佐原病院脳外

退職

若菜 坦 (精神保健セン

ター長・昭29)

病院勤務医師名簿

国保小見川総合病院

名譽院長 小林憲之 (昭20) 外

院長 前嶋 清 (昭36) 外科

副院長 大河原邦夫 (昭39) 外

医 長 寺本 修

(筑波大昭55) 外科

山口清直 (昭57) 整外

高梨一紀 (昭59) 内科

土井靖子

(秋田大昭62) 眼科

三橋 暁

(弘前大平2) 産婦

藤原 剛 (昭63) 耳鼻

宮里寿々子

(琉球大平3) 小児

石 謙

(三重大昭61) 外科

河木 潤

(島根医大平3) 外科

大塚隆弘 (平5) 外科

瀧澤太一 (昭62) 内科

米澤真頼 (平5) 内科

佐藤公美

(山形大平2) 眼科

廖 禹銘 (台湾中山

医学院昭62) 眼科

国保多古中央病院

院長 朝比奈信武 (昭45) 内科

副院長 小久保茂樹 (昭50) 外科

医師 市川千秋 (平3) 外科

富山医科薬科大学附属病院 部長 岩瀬裕郷 (長崎大昭52) 病理

院長 片山 喬 (昭30) 泌尿 教授 辻 陽雄 (昭33) 整形

教授 寺澤捷年 (昭45) 和漢 助教授 布施秀樹 (昭51) 泌尿

助教授 山本修一 (昭58) 眼科 講師 濱崎智仁 (昭46) 内科

千葉県立東金病院 院長 大久保恵司 (昭32) 外科

院長 小林康弘 (昭35) 内科 部長 石井豊信 (昭43) 小児

宮城三津夫 (昭47) 内科 添田耕司 (昭49) 外科

小林 治 (昭51) 産婦 三上直登 (昭58) 内科

南出正順 (昭59) 整外 藤井京子 (昭60) 内科

新見将泰 (昭62) 耳鼻

小川幸平 (平1) 整外

鈴木一史 (平4) 外科

鹿島労災病院 院長 坂巻 皓 (昭25) 整外

副院長 佐藤重明 (昭35) 内科

副院長 久賀克也 (昭37) 外科

部長 斉藤康栄 (昭44) 内科

鈴木義史 (昭59) 内科 斉藤正明

(山形大昭55) 消内 榊原隆次

中野淳之 (日本医大昭61) 耳鼻

服部祐爾 (平4) 内科 疋田 稔 (平5) 内科

平井 太 (平6) 内科 石塚保弘 (平6) 内科

森 雅裕 (平3) 神内 宮内英聡 (平1) 外科

中澤 享 (昭61) 整外 池田 修

(山梨医大平3) 整外 清水純人 (平4) 整外

木村健司 (平5) 整外 岩佐 敏

(山梨医大昭62) 脳外 荷堂 謙 (平3) 脳外

江越賢一 (平4) 泌尿 市川美奈子 (平5) 眼

宮本佳明 (平6) 耳鼻 今井康則 (平4) 放射

鮫田寛明 (滋賀平3) 麻酔

「千葉大学医学部同窓会名簿」

(平成五年版)

名簿 (定価は送料込みで三

千円) 購入ご希望の方は、同

窓会事務局 (内線五〇二六)

にお申し込み下さい。

退官記念式典開かれる

平成七年三月で定年により千葉大学医学部の教壇を去られた大藤正雄教授(内科学第一)および平山恵造教授(神経内科学)に対する記念式典記念講演会および記念祝賀会が、三月十一日午後二時より、千葉大学医学部附属病院第一講堂において行われた。



大藤正雄教授



平山恵造教授

教授)により、「くすりの功罪」と題し、行われた。記念講演につづき、祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、当日の記念事業は、滞りなく終了した。

平成6年度

卒業生進路

記念式典では、高橋英世医学部長のご挨拶のあと、萩原彌四郎名誉教授代表、井出源四郎同窓会長、宮城和彦内科学第一同門代表、渡辺誠介神経内科学同門代表からそれぞれ祝辞があり、つぎに、両先生への謝辞が、内科学第一教室代表税所宏光助教および神経内科学教室代表服部孝道助教より述べられた。

記念品贈呈、花束贈呈の後、退官された両先生が、挨拶された。

つづいて、記念講演が、佐藤哲男先生(千葉大学薬学部

〔整形〕阿部圭宏、大塚 誠、國吉一樹、徐 基源、中島新、橋本将行、橋本光宏、渡辺光弘(産婦)陳 彦良(眼科)浅海紀子、伊藤 彰、内倉曉子、齊藤栄子、佐藤栄寿、末廣伸太郎、根岸久也、元木竜一、〔耳鼻〕大谷 聡、高橋俊之、佃 朋子、留守卓也、野村和弘、〔小児〕黒澤孝一、〔精神〕池野浩行、織田宇一郎、服部功太郎、深見悟郎、古田多真美、〔麻醉〕根橋紫乃、〔脳外〕伊藤誠朗、神作憲司、〔神内〕坂口敬子、島山治子、〔小児外〕清水浩史、山田慎一、〔肺外〕芳賀由紀子、溝淵輝明、〔呼吸内〕赤出川賢治、高森幹雄、橋本友博、〔放射線〕池田充顕、大坂 巖、風間俊基、川上浩幸、木村 浩、渡辺 敢、〔形成外〕蛭沢克己、千明信一、山口喜孝、〔救急〕当間雄之、横張賢司、〔他大学・病院〕谷合 厚(東大眼)、金沢輝久(東大整)、前田仁士(東大生理一)、匂坂敏朗(東大医科研)、福 康志、金森弘志(京大老年)、北山稔大(京大形成)、西海奏子(慶大内)、村田勝宏、横山正樹、吉田俊彦、武田真一、〔一外〕WONG CHEBCOUT、竹内 男、中嶋博之、牧野裕庸、宮澤陽一、森広雅人、〔二外〕川島太一、西森孝典、細井郁芳、

〔進路未定〕五十嵐正喜

平成7年度

医学部入学者

〔千葉(県立)〕粟田敬子、酒井 望、田中宏明、畑奈津代、林由紀子、松野大輔、山岡智樹、〔開成〕青河宏倫、岩田有史、金子利全、金 宇鎮、清田 毅、山田浩司、〔桜蔭〕安藤綾子、小林恵美里、水流京子、中村美穂、八代英子、山崎道子、〔東京学芸大教育学部附属〕木村裕子、谷口俊文、津田可奈、平松彩子、吉見 浩、〔神奈川桐蔭〕大島 拓、大谷俊介、沖津恒一郎、土合昌巳、〔筑波大附属〕阿部克昭、小西建治、杉山正和、高橋恵美、〔船橋(県立)〕堀田健太郎、宮川健彦、〔成田〕鈴木秀海、中島正之、〔長生〕角田良太、中村順一、〔東邦大附属〕大野博司、塩見真理子、古川 健、〔浦和〕石川 治、川田深志、齊藤計太、成島一夫、平野孝和、〔海城〕中村 純、藤川 厚、横内裕敬、〔早稲田〕柿崎 潤、国司俊一、〔桐朋〕長沢 崇、中村泰石、〔武蔵(私立)〕川久保徹郎、本間 順、〔駒場東邦〕上田和孝、櫻井隆之、安田直史、〔ラ・サール〕竹内啓善、深谷佳孝、〔フェリス学院〕古出智子、渡三佳、〔筑波大附駒場〕加藤智

規、長谷川祐三、〔愛光〕平野智久、矢野利章、〔菊里〕杉本晃一、〔八千代〕後藤基泰、〔千葉西〕木下恭子、〔市川〕山本達也、〔渋谷教育学園幕張〕原田麗子、〔志学館〕高橋真理、〔熊谷(県立)〕門平忠之、〔水戸第一〕神谷一徳、〔前橋(県立)〕和田 猛、〔野沢北〕笠原秀人、〔諏訪清陵〕下島和弥、〔駿台甲府〕渡辺 賢、〔富士〕杉山 玲、〔韭山〕平野泰之、〔四条畷〕芳生旭志、〔弘学館〕甲斐昌也、〔黒沢尻北〕鳴海浩也、〔女子学院〕松本ルミネ、〔豊島修大附属〕早川 省、〔神代〕青島 薫、〔晃華学園〕丸岡美貴、〔成蹊〕西岡 桜、〔両国〕松田寿久、〔お茶の水女大附〕成智美恵、〔武蔵(都立)〕重田文子、〔菓嶋〕市川壮一郎、志賀 隆、〔新宿〕阿部秀樹、〔小山台〕直井幸二、〔桐蔭学園〕手塚崇文、〔柏陽〕佐藤晶子、〔駿台甲府〕堀野真嗣、〔大検〕善福正夫、〔南京〕李 泓、〔政府派遣留学生〕MASROJA MOHAMAD KASSIM

〔病理一〕東 守洋、強雅雅、〔微二〕朝岡 愛、〔病原真菌〕王丽、〔分子遺伝〕李蓓来、〔免疫〕稻葉常良、崔俊青、〔生化一〕ムハモドムジャール、林 玲、〔内一〕波田野良二、梅原啓司、森下 一、土屋正一、阿部朝美、神田達郎、阿部信和、小出明範、浜野有記、斎藤雅彦、小島広成、鈴木利也、辻村秀樹、森本直樹、中島賢一、〔内二〕千葉隆一、根津雅彦、松本 功、三池 聡、生月元子、大石嘉則、熊野浩太郎、増田美央、石塚伸子、関 直人、櫻井健一、田中知明、藤井りゑ、〔内三〕坂本直哉、長谷川洋、小倉武彦、滝潤一郎、高見 徹、鹿間 毅、〔肺内〕川名秀忠、安藤総一郎、〔精神〕市来真彦、伊藤寿彦、柴田忠彦、〔皮膚〕池田栄一郎、〔小児〕鈴木康浩、藤井克則、〔放射線〕松野典代、〔外一〕河木 潤、新田 宙、〔外二〕川平 洋、千葉 聡、辛太廣、鈴木一史、大淵 徹、太田 真〔整外〕古本敬明〔産婦〕小竹和美、門 智史〔眼〕佐々木幸三、濱口琢也、石川一之、〔耳鼻〕落合紀子、佐藤 勇、荒瀬佳奈子、岸 宏久、法貴 元、高橋直樹〔泌尿〕太田 詔、〔脳外〕中崎将、佐藤 幹、〔歯口〕小河原克訓、加藤治郎、中西 寛

平成7年度

大学院

医学研究科入学者



千葉大学名誉教授 岡林篤先生を 追悼して

千葉大学医学部教授
(病理学第二講座)

近藤洋一郎



岡林 篤先生は平成7年2月28日、京都府立医大附属病院において慢性心不全のため84年の生涯を閉じられました。先生は昭和10年東京帝国大学を御卒業後、直ちに病理学教室に入室され、緒方知三郎・鈴木 遂両先生の御指導の下に病理学の研鑽にはげまれました。先生に与えられた研究テーマは「敗血症における脾の反応」というもので、御自身の述懐によれば前人未到の茫漠たる領域でありましたが、先生は先入観に拘束されることなく、自らの見たままを記載し、それに従って考察するという創造性豊かな病理学者としての基盤を確立するための場とされました。同時に溶連菌病巣感染実験も手掛ければ、糸球体腎炎や心筋炎

のアレルギー機序による発症を証明されました。昭和16年から数年間先生は研究者として最も貴重な期間を、大平洋戦争のため応召され空費することとなりましたが、復学後は敗戦による困難な状況下において、倍旧の研究上の飛躍を果されました。岡林先生の卵白アルブミンを用いたウサギの遷延感作実験はあまりに有名であります。この着想もかかる困窮の中から生じたものとうかがっております。

やがて東京大学講師から国立予防衛生研究所病理部へ転出、次いで大阪市立医科大学へ移られ、昭和31年千葉大学医学部教授として御着任となり、以降20年に亘って第二病理学教室を主宰されました。岡林先生は若くしてつとに傑出した免疫病理学者と目されておりました。大阪時代に上梓されました「免疫とアレルギー」感染の敗血症観」には、敗血症における全身反応の態様、糸球体腎炎をはじめとする免疫病の成り立ち、遷延感作実験の展望など、後年のさらなる発展を予告する岡林病理学の主要な骨格部分がすでに記されております。免疫病とその背景をなす生体免疫応答への深い洞察、その独特の視点と鋭い眼力は多くの研究者に新鮮な驚きを与えま

た敬意をもって評価されました。先生は片々たる病変の説明に止まることなく、常に「全身観」に立ち総合を目指すことの重要性を強調されました。かくして先生は病理学会はもとより、腎臓、血液、アレルギー、リウマチ等諸学会の指導的立場に長年にわたっておられ、また会長等を歴任し、多大の学際的貢献を果されました。

これらの御功績に対し、勲二等旭日重光章の他、日本医師会医学賞、藤原賞、紫綬褒章が授与されています。岡林先生は一方では大らかな包容力と、温厚なお人柄の持主で、教室員の自由な発想に基づく研究を奨励されました。そして折にふれ、自らの研究成果の真髄を語って倦むことがありませんでした。私たちは先生の自己の学問に対するゆるぎない確信に畏敬の念を深くしたものであります。このような岡林先生の学風を慕って数多くの若き研究者が集い、その薫陶を得て育ちました。御退官後、岡林先生御夫妻をお招きして門下生の会が時々催されましたが、参加者の多様な顔ぶれと、多彩な活動分野に、いつものことながら驚かされたものでした。学生の教育に対しても先生は、成書の素直を退け、自己の探究の核心を直接披瀝される

道を選ばれました。衆を頼まず数は少なくとも学問への正しい志向をもつ者を育成することの重要性を論じられました。岡林先生がひろく多くの人々に敬愛せられた所以は、先らためてふり返りつつ、御冥福を心からお祈りする次第です。

系とともに、俗事を超越した真の学者のあるべき姿を先生の中に見出した感動によるものであろうかと思われまふ。岡林先生の偉大な足跡をあらためてふり返りつつ、御冥福を心からお祈りする次第です。

第19回おのほな美術展開催



平成6年7月12日から18日まで、例年通り銀座集雅堂ギャラリーで開催された。

- 美術展出品作品
- 酒井 忠昭(昭42) ①街の小公園②河沿いの街 油彩
 - 鈴木 弘祐(日大昭39) ①追想②白いブラウス③後奏曲 油彩
 - 山口 宗彦(昭38) スーヴェニール 油彩
 - 島田 哲男(昭41) ①人物②裸婦 油彩
 - 石谷 治彦(昭24) ①マイニングンの街②花 水彩
 - 大木 勲(昭38) 春の弘経寺 油彩
 - 長谷川鎮雄(昭35) 風景 油彩
 - 伊藤 行男(昭5) ①春色②ベネチア 油彩
 - 山川 晋吾(専24) 8月のサンマルコ広場 油彩
 - 今井 力(昭22) 雪の朝 油彩
 - 井上 通(専24) ①花②作品X 水彩
 - 大村 光(昭17) ①ばら②フィレンツェの教会 油彩
 - 仲村 長正(昭29) ①知床の夏②奥多摩風景 油彩

- 細井 四郎(昭12) V E S V IOS 油彩
- 斎藤 英一(昭16) ①二月堂への道②着衣の人 パステル
- 長尾 透(昭16) ①雲南の町②雨の戸隠 油彩
- 神山 英明(昭22) ①浴衣と団扇②電車のつり革 油彩
- 斎藤 宗寿(昭16) 花2題 油彩
- 内田 成和(昭17) 袖裏紅葡萄文大皿 陶器
- 池田 脩三(昭6) 花 水彩
- 川村 孝子(昭36) ①静物2点②風景 水彩
- 宮下 久夫(昭38) 天祖神社 水彩
- 野口 眞利(昭40) ①新緑の谷川②雪の東京駅 油彩
- 西村 克樹(平6) Haemostasis 水彩
- 神作 憲司(学部4) 宮島日本画 墨彩
- 陳 彦良(学部4) 男と女 油彩
- 杉野 恭子(学部3) ひまわりと表わら帽子 水彩
- 第20回は、本年7月11・17日銀座集雅堂ギャラリーで開催されます。詳細については、左記までお問い合わせ下さい。

〒116 9
東京都新宿区高田馬場1-15
1-29 石谷治彦(昭24)
FAX 32000-0253
03-3200-10078

鹿島労災病院だより

少古い話になりますが、昭和56年6月17日、梅雨時には珍しく快晴のまさに。五月晴れ、鹿島労災病院の開院式に御出席いただいた当時の医学部長・井出源四郎先生は「広大な荒野にたつ白亜の病院は、まさに戦艦カシマの偉容を誇る……云々」と御祝辞をのべられました。

日本の三大砂丘の一つといわれた波崎砂丘、人は勿論、鬼も棲まないといわれたその砂丘を造成し、鹿島コンビナートで働く人達のための大団地が完成したのは昭和44



これらの工業地帯で発生する労働災害や疾病、更に地域の開発による人口増に対応する医療機関として、茨城県、周辺町村、医師会、企業などの要請により誕生したのが鹿島労災病院です。

茨城県といってもその最南端、波崎町に建設されたこの病院は、千葉県銚子市から約10km、鹿島神宮の所在地というより最近ではJリーグ、鹿島アントラーズで一躍有名になった鹿島町からは35kmと千葉県境にあり、「チバラギ県」と称される地理的環境にあります。

開院当初は一五〇床です。タート、翌57年4月より二〇〇床の予定が3月31日のコンビナートの大爆発で七名の65〜90%の重度火傷患者の収容を余儀なくされ、予定の五〇床はたちまちベン・ケア・ユニット(B・C・U)として転用、マンパワーや使用薬品剤などの調達、報道への対応等々、大災害時の医療の大変さを痛感したものでした。

開院時より最新のものが整備されました。実に情熱的な大変な努力でした。さらに昭和62年には、術中照射用手術室をもつ放射線治療棟が完成、悪性腫瘍の集学的治療が可能となりました。最近の医療機器としては一・五テストームRI(GE)電子内視鏡、腹腔鏡視下手術セット、乳房撮影装置、カラードブローなどさらに更新した主なものは、CT(GE)、シネアングリオ(フィリップス)シンチカメラ(シーメンス)などいわゆる高額医療機器はほとんど最新のレベルの高いものをそろえております。

さて、それらを駆使し診療にとりくむスタッフは別記の如くで千葉大医学部の各科の絶大な御協力をいただいております。あのはな同窓のほかにも富山医科薬科大学と漢診療部の寺沢捷年教授(45卒)の御好意により内科2名、また、皮膚科は北里大学医学部より2名合計41名です。

最近少し割合率が落ちてきたのは残念ですが、C・P・Cは毎月行われております。地元医師会と共催する臨床カンファレンスも年10回開催し今年の5月で一三三回目となりました。学会発表は毎年40〜50回程度、論文としては年10編程度、各科とも学会認定医研修施設を承認されており

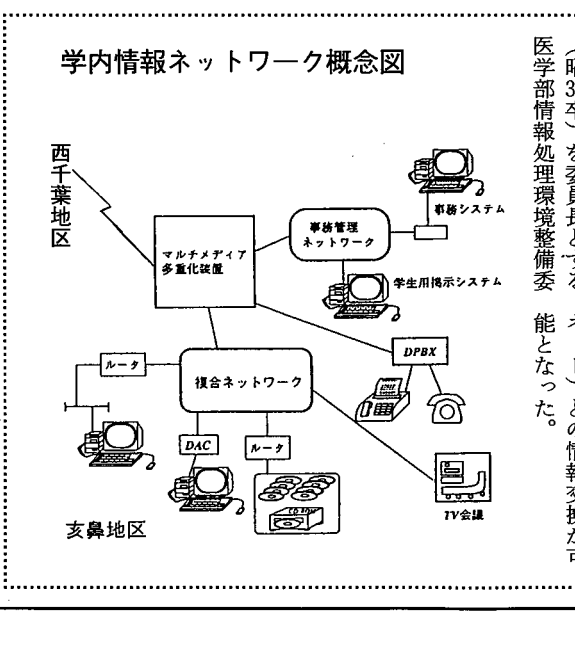
現在の鹿島臨海工業地帯は鹿島灘よりY字形に港を掘削し、太平洋より直接二十万トン級の船舶が接岸できる人工港の利を背景に、北は住友金属、南は三菱化学、旭硝子などを中心に五〇余社の企業が、幾度かの経済危機をのりこえ、たくましく発展しております。

病室の窓から、東は青松白砂の海岸線、旭日昇る鹿島灘、西は夕陽をうけて赤く染まる利根川の川面を俯瞰するこの病院は、敷地六万㎡(外来駐車場六三〇台)床面積は延約二・五万㎡と広大です。オイルショックの影響で開院時狭隘だった病棟も、平成3年以來3年がかりで増改築し、現在個室は36%、一床当り平均18㎡とゆつたりとした空間を確保各階には一般浴室のほかリフトバスが設置され、患者さんのアメニティ・QOLの向上にとめております。

いかなる地域的ハンディがあっても病む人には、平等にのぞむ最高の医療をうける権利があり、病院はそのニーズにこたえる最高、良質の医療を提供すべきという坂巻皓院長の信念により、医療機器は

「高度で良質の医療を、それが高いモラルをもって提供し、職員全体、協調と融和を基盤に業務の遂行を」これが院長のモットーであり、開院以来の病院のバックボーンとなっております。病院自体の特徴は、実には和気藹々常にアクティブなことでしょうか。(文責・佐藤重明・昭35)

病院周辺の空地にはルビナスが咲きだしました。やがて夕方には宵待草が咲き乱れ美しい原生花園となります。夏の海水浴では関東唯一の穴場とこのことは非一度おいで下さい。同窓の皆様、千葉大医学部の皆様これまで以上の御後援よろしくお願いいたします。



医学部情報ネットワーク運用開始される

医学部情報ネットワークが平成7年3月より運用開始された。医学部情報ネットワークは平成5年10月より安達元明公衆衛生学教授(昭38卒)を委員長とする医学部情報処理環境整備委員会となった。

あのはな同窓会 常任理事会議事録

平成6年度第3回

日時：平成7年2月22日(水)

議題

- 一、平成7年度常任理事会および四金会の日程について
- 二、平成7年度総会日程について
- 三、財政基盤の強化について
- 四、活性化(財政基盤の強化を含む)検討委員会を作り、常任理事会の検討承認を得て総会に計るべき具体案の検討を早急に進めること、構成は学内4名(近藤洋一郎、大藤正雄、清水文七、佐藤甫夫各理事)、東京あのはな会より5名の推薦を受けることが了承された。

平成6年度第3回
日時：平成7年2月22日(水)

担当：千葉地区あのはな会
なお、総会担当は、大学、東京、千葉地区の順番であることが確認された。

活性化(財政基盤の強化を含む)検討委員会を作り、常任理事会の検討承認を得て総会に計るべき具体案の検討を早急に進めること、構成は学内4名(近藤洋一郎、大藤正雄、清水文七、佐藤甫夫各理事)、東京あのはな会より5名の推薦を受けることが了承された。

四、あのはな同窓会賞について
検討委員会(委員は嶋田裕、木内政寛、小幡裕、伊東各理事と鍋谷欣市杏林大名誉教授と決定)においてさらに検討し、次回理事会に計ることにした。

五、第38回東日本医科学学生総合体育大会冬季大会支援依頼について

同窓会より50万円の拠金が既に決まっているが、会員あての拠金依頼文を会報に同封発送して欲しいとの学生の要望につき審議。従来の拠金の実績等更に資料を集め、次回理事会にて前向きに検討することになった。

報告事項
一、同窓会報について

平成7年度第1回
日時：平成7年4月26日(水)

議題

- 1. 平成6年度決算報告および平成7年度予算案について
- 2. 決算報告、予算案の記載方法について再度具体的に審議し、款項目等の区分を標準的な様式に準拠して修正すること、事業費として予備費の計上額を適正に配分することなどを申し合わせた。これらの修正を早急に行い、常任理事会が確認の上、総会に上程することとした。平成6年度決算報告書については、総会までに会計監事の監査を受けることとした。

2. あのはな同窓会賞について
あのはな同窓会賞の選考規定(案)について説明があり、審議の結果、選考委員6名学

会報107号を1月20日に発送、108号は5〜6月発送の予定。千葉地区あのはな会の積極的組織化の方針につき、越川衛、伊東和人両理事より説明があり、本部等の協力を期待する旨報告があった。

三、「千葉大学(医・薬・理)同窓会名鑑」への掲載勧誘が、会員あて届いているが、同窓会とは無関係なものであることに注意を喚起したいとの報告があった。

内3名、学外3名)は会長が委嘱し、賞の対象、内容等の具体的項目については選考委員会にて検討することとなった。

3. 常任理事の交替について
大藤庶務担当常任理事の退官に伴い、次期総会において、大藤理事を参与し、佐藤(甫)事業担当常任理事を庶務担当常任理事へ、増田理事を事業担当常任理事に推薦する旨説明があり了承された。

4. 第38回東日本医科学学生総合体育大会冬季大会支援依頼について
同大会理事長の中島教授より同大会への資金援助について説明と依頼があった。審議の結果、同窓会長名の援助協力依頼文の一部修正を行った後、同依頼文と振込用紙を同窓会報に同封して会員に発

送し、協力を要請することになった。さらに、援助金の適正な使用、管理、報告を求めることとし、これらを総会に報告することになった。

5. あのはな同窓会の活性化対策に伴う問題について
活性化対策に伴う問題点についての指摘と説明があった。審議の結果、法人化は困難であること、形態は現在のままでも税法上はさほど支障がないことなどについて意見の一致をみた。活性化のための同窓会の運営方法、会費納入促進および財政基盤の強化等については、今後十分討議を重ねて前向きに検討することになった。

6. 平成7年度総会議題について
平成7年6月24日(土)15:00〜19:00開催予定(担当千葉地区あのはな会)の総会議題等について渡辺副会長より説明があり、了承された。また、千葉地区における同窓会の活性化を計るため、千葉県のあのはな会発足の提案文を会員宛てに発送したいとの報告があった。

平成6年度第3回
日時：平成7年2月22日(水)

午後5時40分〜7時
場所：同窓会館一階会議室
出席者：招待者 3名、学内

4名、学外 14名
越川理事の司会で開始され、会長挨拶、今期昇任の三氏(救急医学 平澤教授、耳鼻咽喉科学 鈴木助教、整形外科学 南助教)の紹介と挨拶のあと、和やかな歓談の一時を過ごし、加納副会長の締めで終了した。

平成7年度第1回
日時：平成7年4月26日(水)

午後5時30分〜7時
場所：同窓会館一階会議室
出席者：招待者8名、学内8名、学外19名。

椎名常任理事の司会で開催し、井出会長等の挨拶の後、昇任者等の紹介挨拶があり、和やかに歓談した。

おくやみ
松崎 宗佐氏 (大元 昭5)
伊藤 源一氏 (昭5)
鈴木 龜太郎氏 (昭10)
太田 謙三氏 (昭11)
青木 勝氏 (昭15)
田波 潤一郎氏 (昭16)
村戸 弘氏 (専18)
鈴木 陽之助氏 (昭21)
鈴木 太郎氏 (昭22)
鈴木 有司氏 (昭26)
高田 邦安氏 (昭48)
白壁 彦夫氏 (昭20)
加藤 一夫氏 (専20)
田中 晋氏 (専23)
上村 菊朗氏 (昭24)
岩崎 洋治氏 (昭29)
北沢 清子氏 (昭36)

猪之鼻奨学会への寄付
(平成7年1月以降)
吉田 亮(昭和23卒) 元千葉大学長・医学部 30万円
大藤 正雄(昭和29卒) 元千葉大学教授・医学部 50万円とワープロ一台
平山 恵造(東大29卒) 千葉大学名誉教授・医学部 30万円

あのはな同窓会
あのはな同窓会賞への寄付
大藤 正雄(昭29卒) 80万円

人物名鑑社 千葉大学(医・薬・理)同窓名鑑係と称し、氏名勤務先等を記入するアンケートが郵送されております。本同窓会とは何ら関係ありませんので、ご注意下さい。

編集後記
本号の「随想」には井出会長に寄稿していただきました。本欄への会員諸氏の投稿をお待ちしております。また「お知らせ」には千葉県在住の会員へのお知らせをせました。本欄を各支部会員への便りに御活用下さい。編集委員会に新たに北原宏委員(昭43)の追加があり、また下山直人委員の後任は山本達郎委員(昭57)になりました。次号より紙面をA4に拡大することを企画しています。(嶋田 裕)

四／金／会
平成6年度第3回
日時：平成7年2月22日(水)

午後5時40分〜7時
場所：同窓会館一階会議室
出席者：招待者 3名、学内

4名、学外 14名
越川理事の司会で開始され、会長挨拶、今期昇任の三氏(救急医学 平澤教授、耳鼻咽喉科学 鈴木助教、整形外科学 南助教)の紹介と挨拶のあと、和やかな歓談の一時を過ごし、加納副会長の締めで終了した。

平成7年度第1回
日時：平成7年4月26日(水)

午後5時30分〜7時
場所：同窓会館一階会議室
出席者：招待者8名、学内8名、学外19名。

椎名常任理事の司会で開催し、井出会長等の挨拶の後、昇任者等の紹介挨拶があり、和やかに歓談した。

おくやみ
松崎 宗佐氏 (大元 昭5)
伊藤 源一氏 (昭5)
鈴木 龜太郎氏 (昭10)
太田 謙三氏 (昭11)
青木 勝氏 (昭15)
田波 潤一郎氏 (昭16)
村戸 弘氏 (専18)
鈴木 陽之助氏 (昭21)
鈴木 太郎氏 (昭22)
鈴木 有司氏 (昭26)
高田 邦安氏 (昭48)
白壁 彦夫氏 (昭20)
加藤 一夫氏 (専20)
田中 晋氏 (専23)
上村 菊朗氏 (昭24)
岩崎 洋治氏 (昭29)
北沢 清子氏 (昭36)

猪之鼻奨学会への寄付
(平成7年1月以降)
吉田 亮(昭和23卒) 元千葉大学長・医学部 30万円
大藤 正雄(昭和29卒) 元千葉大学教授・医学部 50万円とワープロ一台
平山 恵造(東大29卒) 千葉大学名誉教授・医学部 30万円

あのはな同窓会
あのはな同窓会賞への寄付
大藤 正雄(昭29卒) 80万円